

# 公共放送NHKに望まれること —経営委員 2 期の経験から—

小林 緑 さん (元NHK経営委員・  
国立音楽大学名誉教授)

講演会記録 (2017 年 3 月 4 日、奈良県文化会館)

2017 年 5 月 4 日  
NHK 問題を考える  
奈良の会  
連絡先電話：  
090-5675-5049

## I. 佐藤 真理 (奈良の会代表) 開会挨拶

暴走を続ける安倍政権自公政権をどうしても次の総選挙では2/3を割り込ませる、あるいは野党共闘で過半数割れに追い込むことで日本の政治を変えることが大事です。

今日お見えの方は、思想信条は別ですから自民党を応援の方がおられると思いますが、とにかく日本の政治は国民主権になっていない。その一つの要因はジャーナリズムの退廃、後退ではないでしょうか。新聞では明らかに与党寄りとなるところとはっきり分かれています、テレビも同じ。とりわけNHKはひどい、靱井会長がひどいということで再任させない取り組みが成功して、ご存じのとおり1月で退任しました。

上田さんになって今までの方針は変えているが、どうなるか分かりません。ただ靱井さんを辞めさせたことはいいんですが、それでややほっとしたということがないのでしょうか、奈良の会の目的はNHKの自主独立を求める、表現報道の自由と国民の知る権利を守る。憲法 21 条を実効化あるものにしましょう、視聴者の主権のNHKの実現を目指す、と3つあり、活動をしています。

奈良の会が出来て古くない、一昨年ですから、全国では進んだ取り組みがいっぱいあります。今日も進んだとりくみをしている、兵庫、京都、大阪、滋賀からもお見えになっている。

私たちは今3つ裁判を抱えています、最初から仕掛けた訳ではありません。宮内さん、長く地方議員で頑張っていた方が、数年前から余りにもNHKがひどいということで、受信料を払わないでいたら、なぜかわからないが簡易裁判所から支払い督促が来て、それで闘うことになりました。

放送法という大事な法律があります、この法律にはテレビを購入すればNHKとの間に放送受信料契約を結ばなければならないと謳っています。一方、NHKは放送法4条で政治的に公正中立な放送をしなければならない。ウソを放送してはならない。論点に分かれる問題については多角的な角度で取り上げなければならない。しかし今は安倍チャンネルと言われる状況になっています。これはひどすぎるということで宮内さんが受信料支払いを保留した。こんなひどい状況が続く以上、契約である以上は、受信料は払わなくてはならないが、しかしながら一方NHKのほうも放送法を守って公正中立な、論点、議論に分かれる問題は多角的に論じる報道をしなければならない。それが政府与党寄りの垂れ流しの報道になっている。そのような場合は一時的に受信料の支払いをストップができるという理論を立てて頑張ってきたが、裁判官が2回で結審、忌避申立に発展したが、逆に(宮内さんは)昨年7月からNHKは放送法第4条を守る義務がある、確認訴訟をおこしました。さらに12月にはこれに呼応して45名、3月にはまもなく100名の原告団を作り、放送法4条とNHKが自ら定めた国内番組基準を遵守する義務がある確認訴訟を提起します。正面から国民のためのNHKにしていこうと闘っていきたい。



是非これを、兵庫、京都、大阪でも東京でも、全国で起こしてほしい。靱井会長をやめさせたことで、様子見もありますが、今は奈良が孤軍奮闘していますが、全国に広げたい。

集団訴訟の第一回口頭弁論が3月23日にあります、宮内さんの新しい裁判の第3回口頭弁論が同じ3月23日11時から、集団訴訟は11時15分から、そのあと報告会を行います。

裁判は新しい裁判ですから、負けた判例しかないがこれをひっくり返して国民主権にふさわしいNHKを作ろうという裁判なので、勉強をしなければなりませんから毎回このような学習会をしています。

今日はNHK経営委員をされた小林緑先生のお話を聞いて、NHKのありかたをともに考えたい。最後まで宜しくお願いします。活発な質疑討論もお願いします。

## II. 小林 緑 さん 講演

### 1. はじめに

ご紹介いただきました小林緑です。どうぞよろしくお願いいたします。私は水曜日くらいまで絶好調で、前の週は沖縄辺野古に座り込みに行ったりして無事帰ってきました。ところがそのあと急に風邪を引いてしまいまして、今日はちょっとフラフラしながら来ました。



今日このような所でお話をする事を決めたのは、だいぶ前から受信料支払いの凍結運動をしておられる醍醐聰先生ご夫妻、兵庫の西川幸さんからのお励ましや、秋田の会の畠山与一さんからお手紙を頂いたことなどによるものです。

このたび経営委員に再任された長谷川三千子

さんと、二年ほど前に国会内の集会でやり取りしました。「女たちは戦争を認めない」という趣旨で、戦争法が成立した直後国会内で集会があったとき、私は一観客として参加していましたが、最後に長谷川三千子さんが突然名乗り出て「私はNHKの経営委員であります。安倍晋三応援団です」と平気で言い放った。それで仰天、みんな凍りついたけれども、集会も最後に差し掛かり、司会は落合恵子さんでしたが、そのままやむやみに終わりそうになったので、私は、これはまずいと思い「私も退任したが経営委員を6年やりました。経営委員会は厳正中立を前提に成立している機関なので安倍晋三応援団ですと名乗るような方は経営委員の資格がない」と一言申し上げました。そのことを、大小のメディアが取り上げたり、私も他で発言したことを秋田の畠山さんが覚えてくださっていて、昨年の暮れにお手紙と秋田のNHK問題のとりくみを細かく書いたレポートも送っていただきました。

そのお手紙から、私がさっき言ったことがまだあまり広く知られていないことに気が付いたので、機会があれば必ず経営委員を務めた義務としてお伝えしなくちゃいけないと思い、本当はもう退任して今年6月で10年、ひと昔になるので、出来たらお役御免になりたいところですが、残念ながらその後経営委員を経験された方々がほとんど口を閉ざして自分が経験したことをなかなか言わない、鋭い指摘をされてきた方もご自分の事業との関係や、これからの公的な活動に差し障るからなどで、なかなかNHKのことは話したがらないということになっているのが残念です。

### 2. 私のライフワーク

私は国立(くにたち)音楽大学、これは私立大学ですが、ここに30数年勤め、NHKを退任した同じ年に退職したので、今はもう何も恐れるものはない。現在は基本的に女性たちのいろんなグループや、このような場面で呼んでいただけることが重要と捉えていますし、私自身がライフワークにしている、知られていない女性の作曲家を聴かせ、知らせるコンサートを実施しています。それ

を私の夫と二人だけで、誰からも援助を受けず続けています。そういう形ですので誰にも文句を付けられずに何でもできると、今は開き直って話しをしたいと思っています。

皆さまから理想的、と思われる形、つまり、ひも付きでなく、自由にいろんなことが出来るのは、幸い私も夫も音楽を本業とする共稼ぎで、フルタイムの職に就き、家もあるし、母親も101歳になりますが元気でケアハウスで頑張ってくれて、介護の心配がない。すごく恵まれている立場だからです。そして一番大事な資金ですが、年金だけではコンサートはできないので、NHK経営委員として沢山いただいた報酬を自分たちがやりたい音楽活動に回し、誰にも文句を付けられず、妥協せず、続けられるようにと、NHKからの報酬をそっくり貯金して、それをコンサートに注いでいます。このようにいろんな幸運が重なっているのですから、それをできる人間がやらなくては罰が当たると思ながら、今に至っています。

### 3. NHK 経営委員会のこと

今日は一枚目に書いた資料の「びっくり仰天のエピソード」は後にお話することにして、8ページある資料の3ページ目、アジア女性資料センターというアジアの女性問題をいろんな角度から扱っている機関紙があり、昨年の暮れに出た第88号に掲載された私の報告を、まずはお読みください。

靱井会長再任阻止のさなかに「緊急院内集会、靱井会長NO！取り戻せNHKを視聴者の手に！」という企画が、NHKの退職者有志によって国会内で行われました。その時パネラーとして呼ばれ—私がNHKの退職者と呼ばれているのかどうか、そうではないと思っています。私の本務はあくまで国立音楽大の教員ですから、そこにNHKの任務が重なると困ってしまいました。NHKからの依頼は断れないと両方とも続けていたのですが、一番迷ったのは大学の大事な行事が重なったときNHKの側を優先したらいいのか本務校を優先したらいいのか最後まで分からなかった。

資料2ページ目は、その緊急院内集会で発言しようと思った項目をメモしたのですが、その8番目に私にとって大変ショックだった事柄を記しました。サンデー毎日が2014年1月頃取材にきて、NHK経営委員の実態はどうかきかれ、2、3時間しゃべりまくりましたが、そこで話題にしたのが、8番目の項目です。

NHKの経営委員会が実は毎年大名旅行をしていました。視察と称して出かけた先の支局で経営委員会を開催するのです。1泊、時には2泊で朝から晩までごちそう攻め、ものすごく豪華なお土産付き、場合によっては民俗芸能のパフォーマンスとかを鑑賞。まさしく大名旅行であきれてしまった。

そういう日程と本務校の方が大事な授業、試験と重なったときどうしたらいいんだろうと悩みましたが、経営委員の旅行を切り上げて失礼したこともありましたが、何時まで経ってもNHKと本務校をどちらを優先すべきかわからなかったのですが、サンデー毎日の取材で大名旅行がいろいろありましたとお話しました。例えば安芸の宮島に行ったとき、国宝級の財宝など、普段一般には絶対見せてくれないものを経営委員会ご一行で特別に取り出して見せていただいたとか、それこそVIP待遇だったことなどを言いました。びっくりした記者の女性がそれを書いたのですが、裏を取るためNHKの事務局に聞いたら、なんと記録がないので存じませんと言われたというんです。そうなるかと私が嘘をついたことになると思って本当がびっくりしました。つまり、そういう不都合な真実を破棄したか意図的に隠ぺいしているかどうかです。

もっともこの大名旅行は私の一期目在任中の3回だけでした。二期目に入って、海老沢勝二会長の問題が起き—結局海老沢3選とはなりませんでしたが、これはまずいかな、しかも翌年の大名旅行先が海老沢さんの地元の水戸が候補とひそかに決まっていた。これはますますやばいと思ったのかそれはやめになり、それ以来大名旅行は無くなったことになっています。でも私は3回分しっかり記憶しています、記念品も家にあります。素

敵なコーヒーカップなどもいただいたので破棄するわけにもいかず大事に使っています。

そんなこともあって、NHKの体質には公金感覚が欠如していると思います、ものすごく潤沢な資金に恵まれて苦勞せず受信料で 6000 億に近いお金が入ってくる。それをどう使ったらいいのかわからないのではないかと。無駄だらけの感じで、12 人の理事会の執行委員、職員が 1 万何人いるが、その人たちもお金持ち気質が蔓延してこれが当たり前だと思っているから、靱井問題が起きても何とかしなくてはいけない、という切迫した危機感が感じられない。

#### 4. 緊急院内集会

10 月 4 日の緊急院内集会というには、当日参加された元NHKのジャーナリストも、決起集会だと意気込んできた割にはすごく緩いなあ、と言っていました。一番の原因は公金感覚が鈍いからですが、当日は、経営委員を一期でやめられたけれど経営委員長代行も勤められた上村達夫さんが、靱井さんが会長にふさわしくないと逐一述べられました。でもいちいち説明していただくなくても皆分かっていると思った。それよりもどうしてこんな会長が選ばれたのか、余りにも恥ずかしい発言を繰り返しているような会長を、経営委員会だけが会長の罷免権、任免権を持っているわけですから、どうして罷免に追い込めなかったのか、その理由を聞きたかった。ところがそのことは全然触れずに「靱井さんが適格ではないと思います」という感じで、長谷川三千子さんの批判も出てこなかったのです。それでもってよしとしてしまう体質がNHKの退職者の有志の中にもずっとあるんじゃないかと思います。

先週の日曜日、靱井再任を阻止、その代わりに退職者有志の話し合いで会長候補を 3 人あげて経営委員会に提出して討議してほしいと申し入れた件を受け、その候補の方も含めて今NHKに言いたいことを発信する、NHK退職者の報告集会が新宿で行われました。退職者有志がそのとき会長候補に推薦したのは、東京大学名誉教授、日本学術協力財団副会長廣渡吾さん、日本女性学習

### 緊急院内集会

## 靱井会長NO！ 取り戻せNHKを視聴者の手に！

私たち「NHK全国退職者有志」は、靱井勝人氏のNHK会長就任時の公共放送のトップとしてあるまじき言動に危機感を深め、経営委員会に対して罷免要求をしてまいりました。そして、2年半、さらに危機的状況が続いています。靱井会長罷免とNHKの政治報道の在り方に異議を唱える市民運動は、全国的広がりを見せています。また、参議院総務委員会では平成27年度、28年度の二度に亘り、経営委員会に対し、会長の選出方法の改善を求める決議をしております。私たちはこの状況を深く憂慮し、次期会長選挙の日程が動き出すにあたり、「次期会長候補推薦委員会」を立ち上げ、専門家とともに、議論を始めました。集会では、受信料制度を支える市民として「公共放送のあるべき姿」「市民に開かれた会長選出」について議論を深めたいと思います。

- ◆基調報告 上村達男氏 (元 NHK 経営委員・早稲田大学教授)
- ◆リレートーク 上原公子氏 (元国立市長)
- 小林 縁氏 (元 NHK 経営委員・国立音大名誉教授)
- 砂川浩慶氏 (メディア総研所長・立教大学教授)
- 岩崎貞明氏 (「放送レポート」編集長) 他

日時 2016年10月4日(火) 14時30分~17時 (14時開場)  
会場 衆院第1議員会館大会議室 (千代田区永田町2-2-1)  
14時から議員会館玄関ロビーで係が入館証を渡します

主催 NHK全国退職者有志 (賛同団体名簿は当日別紙で配布)

<連絡先> 呼びかけ世話人 目省吾 090-2907-9405 cado@circus.ocn.ne.jp

財団理事長、東京学芸大学名誉教授、村松泰子さん、そして作家の落合恵子さん、以上3人でした。

こういう方を推薦しましたと、上記報告集会では、退職者からの報告として、政権の圧力や干渉に抗してということで大治浩之輔さん、川崎泰資さん、池田恵理子さん、永田浩三さんと、現在活躍しているかたがたがそれぞれの立場から政権の圧力、干渉に抗してという報告をされました。私は当日他に予定があつて、途中までしか参加できなかったのですが、私自身が次期会長推薦委員会にいつの間にか名を連ねてしまったのですが、今までのような財界人ばかりではなく、財界人ではない会長が絶対ほしい、2 ページ目の緊急院内集会の最後のところに本音で書きましたけれども、既存の権威とは無縁のさわやかな女性をぜひ新会長にということで、落合恵子さんを推薦したんです。その推薦が皆さんの賛同も得て3人の推薦者の中に入りました。上記2月26日のNHKの報告集会のときには二人の会長候補は出席されましたが、落合さんは地方での講演予定があり、欠席でした。それで事務局に届いたメッセージを

代読することになり、事務局が私にその代読を依頼されたので、代読させていただきました。

二番目に報告された元政治部記者でロッキード報道を担当された川崎泰資さんが、開口一番「今日、日放労の人は来ているか」、NHKの労働組合の人ですね。そしたら誰も来ていない、NHK退職者の集会だというのに現役の組合員が誰も来ない、それくらいNHKが一丸となってこれからのNHKを何とかしていかなくちゃと、決意が足りないのではないかと一喝されたところで私は退席したのですが、そんな一幕がありました。

先立つ緊急院内集会の時もう一つ大変印象的だったのが、初めて元国立市長の上原公子さんとご一緒したこと。その上原さんの問題、ご存知でしょうか・・・、彼女はすでに市長を退職されていますが、一橋大学に面した「大学通り」に見事な美しい桜並木があり、そこに突然民間の業者が高層マンションを建築する計画が持ち上がったため、市民は景観を守る上でもこれは認められないと激しく運動をして高層マンションを削らせた、その運動をサポートしたのが当時の上原市長でした。その後この問題の裁判が起こったため、彼女も会長候補にしてもいいのではという話しもあったのですが、裁判を抱えて大変だと、実現には至らなかった。ともかく、環境保全をめぐる敢然と業界と対抗して闘う姿勢を貫かれた女性が隣にパネラーとしておられてとてもうれしかった。

私の本務校の国立音楽大学も元は国立市にあって、今は立川ですが、そういうご縁もあります。つい最近、裁判が敗訴になって上原元市長一人に4500万円払えという判決が出てしまったので、上原さんに4500万円も払わせることはできないという運動を市民が立ち上げたので、私も賛同しました。これこそ住民自治を蹂躪する判決であり、しかも女性の市長に対するいじめではないかとも感じて、絶対協力しようと考えました。

住民自治ということ言うなら沖縄の問題は住民自治蹂躪どころか圧殺している典型、そういうことがいろんなところで起きていて、しかしそれはNHKが少しもまじめに報道していない。沖

縄の問題は総理や官房長官が出かけたニュースをやるだけで、現地でどれだけ激しい抵抗運動が行われているかちっとも生々しく伝わってこない。これはNHKの最悪の責任問題だと、改めてこの前沖縄に行ってみて感じました。

二三付け加えた後にDVDを見てもらいたいと思います。

4ページの下に載せましたのは、正式の出典を確認するのを忘れてましたが、関千枝子さん—この方は皆さんご存知ですね、女性と戦争、広島語り部として頑張っている女性9条の会のリーダーです—が、私が長谷川三千子さんとやりあった場面を見ていて、あなたこれ入ってと言われて安倍訴訟原告団の一員となり、その間の感想を述べたものです。その場で、はいはいと承諾、原告団に入っていました。

私にとっては正直に申し上げて、靖国の問題は全く無知で、なんであんなに問題になるのかなあと本当に無知だったんですけど、だんだんわかってきたつもりです。実際に2回行って遊就館を見ましたが、そこで驚いたことは、おどろおどろしい戦争場面の動画や記録だけじゃなくて、それは当たり前で分かり切ったことで、それだけでなくいろんなところにすごく手の込んだ芸術品がちりばめられていて、要するに単なる神社でなく日本の工芸や伝統とか、音楽は生で聞こえてこなかったが、あらゆる分野の伝統的な工芸・芸術が駆使されていることが分かって、こうやって人びとを戦争賛美に誘導していく、ありがたい立派なところなんだという風に洗脳していくことが分かって、なるほどこういう面からも靖国問題を考えられるんじゃないかと思いました。

実際に地裁での口頭弁論に原告として発言してくれと言われ、弁護士さんが詳細に取材をして、陳述書を纏めてくれましたので、それを読み上げました。そしたら今までにない語り口の陳述であってよかったですと皆さんから喜ばれました。



## 5. 東京芸術大学発 ”おかしな” コンサート 2つ — 音楽にも「軍事」の影

5 ページ目は、私の出身校、東京芸術大学の学内にある、奏楽堂、コンサートホールでとんでもないコンサートがいくつも起きていることを記したものです。それが全部戦時色復活、普通演奏できない作品がよりによって 2015 年の秋から 2016 年にかけて、今年はどうだったか新しいニュースを聞いていませんが、行われました。芸大発の“おかしな”コンサート2つ — 音楽にも「軍事」の影?と書きましたが、これは「女のしんぶん」2016年3月10日号に載りました。その真ん中の段に信時潔作曲、北原白秋作詞、皇紀 2600 年奉祝の交声曲(今でいうカンタータ)「海道東征」という曲の上演に触れています。それはまず産経新聞社主催で信時の出身地である大阪で、ザ・シンホニーホールにて2回、2015年11月20日と22日に続けて、それから今度は芸大が主催して学内の奏楽堂で全曲演奏されたのです。



戦後 70 年間ほとんど封印されてきた露骨な天皇賛美の大曲が今なぜ、しかも大阪では同じ信時が作曲し、戦時中は“第二の国歌”とも言われた「海ゆかば」もアンコールで全員が歌ったとか！是非これは現場で聞きたいと、大阪まで行こうと思ったんですが、日本会議の動員があったのかとくにチケットは完売で行けなかった。しかも産経新聞は芸大の奏楽堂で行われた演奏会のこともカラー入りで目立つ記事にし、「満席の聴衆が壮大な調に酔いしれた」と書きました。さすがに

東京芸大でも、「自由と平和のための東京芸術大学有志の会」が立ち上げられ、何人かが賛同人になって(私も賛同人の一人です)、その中からこれはあまりにも問題があるから何とか正式に抗議しなくちゃいけないと、申し入れたのですが、結局、有志の会の一員でもあり、音楽学の最も重要な立場にある教員が、これには全く政治的な意図がありません、芸大の作曲科創設の立役者である信時潔没後 50 年を顕彰する純粹の音楽的行為であり、あくまで研究的意図なのです、と発言してことを収めてしまいました。

これが音楽界にとって一番のキーポイントだったと思う。音楽は音楽ですと純粹に考える、音楽は音、楽譜に書かれた音の響きでしかなくて、そこに政治的意図、色合いとかはないんですと言いつのるわけです。それは、確かに音楽は聞いた人によってどのようにも聞き取れる、しかしこの場合は明らかに信時潔作曲、北原白秋の作詞によってもの見事に神武天皇が如何にして西の方から東に攻め上げて日本を建国に導いたか、そして最後に「八紘一宇」という言葉が出てくるような詞なのです。そういうものをこれは純粹な音楽行為であって政治的な意図はないと言えない。そこにははっきりと北原白秋の意図が込められているのです。それを使って信時も作曲したわけです。

これは皇紀 2600 年を祝うということで時の政府から依頼されての作曲です。日本人だけでなく、ヨーロッパの名だたる作曲家、ブリッデン、リヒャルト・シュトラウスまで作曲しているんです。そういう対外的公的な作品で、しかも明白な政治的な歴史的な意図があるものを、皇紀 2600 年(1940 年)に作られたものを敗戦後 70 年も経って、今どきななぜやらなければならないのですか。これは今の時局との関係が想像されずにいられない。その証拠にこの曲は、今まで何回か部分的に放送されたり、録音や CD 化も部分的には行われてはきました。しかし今回のように大々的に、ものすごい大曲として、この大曲の意味は、大きなオーケストラに大人の合唱と子どもの合唱に、独唱者が 4 人必要とされる、バッハのカンタータ

の規模を超えたものすごく巨大な音楽ということですが、こういうものを全曲演奏するには、ものすごい巨額の予算が必要です。そうして初めてできることが芸大でできちゃった。芸大は国立大学だからしょうがないかも知れないけれど、芸大の戦時教育、言い過ぎかもしれませんが、そもそも東京芸術大学というのは、当初「音楽取り調べ係」の名前でスタートしました。これはまさしく脱亜入欧の精神と軌を一にして、音楽文化も欧州に習え、とりわけドイツをモデルにせよということで、作曲・音楽が、日本のクラシック音楽の基礎として据えられたものですから、いまだ



皇紀 2600 年記念切手

に芸大でも音楽の最高峰はドイツ音楽と思われるんです。だから私のようなへそ曲がり、ドイツ語は堅苦しくて陰鬱な感じで、きれいな時はきれいですが、どちらかというと好きではない。私はフランスに留学したこともあってラテン系の音楽が好きです。フランス、イタリアとかスペインとか。そちらは感性が違うわけですが、芸大の人たち、音楽学の中心にいる人たちは、そういうものを軽く見て、そもそもドイツ語ができないと音楽の研究ができないと思っているんです。

もちろんドイツ語は必須です。だけど音楽の歴史の大部分はギリシャ語、ラテン語、中世からフランス語、イタリア語、スペイン語、そしてドイツ語は後の方になってやってきた。明治維新の頃からドイツ音楽が成り上がった。それがあたかも大昔からドイツ音楽が中心だと、変に勘違いしてドイツ語、およびドイツ音楽を崇め奉るという事態になっています。

しかしとても皮肉なことに信時潔の音楽は、言葉こそ日本語ですが旋律も時々民謡風なものが使われますが、楽器は全部西洋の楽器で、西洋音楽で統一しています。どうせなら日本の楽器を使ったらと私は思いましたけれどもそうではない

んです。西洋の楽器を使って日本らしさを出したつもりになって、自分はアジア人であることを忘れてヨーロッパ人に成り代わっていると勘違いしたところがあるんです。自らエリート意識に浸らせる、このことがすごくこの例を見ても感じられます。

5 ページ最後のところに書きましたが、2016 年 2 月、芸大のウィンドウオーケストラと海上自衛隊音楽隊が同じ舞台の上で、つまり芸大の奏楽堂で共演したのです。今度こそと思って、行列に並んで入場券をゲット、ホールに入ってほんとに驚きました。舞台上で交代に演奏し、最後に芸大ブラスと自衛隊が相対して一緒に華々しい軍楽を演奏したのです。しかも、その時芸大管楽器出身の衆議院議員と名乗る男性が幕間のトークに出てきて、今日はこういうことが出来て大変嬉しいです。今日は稲田朋美先生もご来場です、と、客席を差し示して得意げに紹介したのです。稲田さんはまだ防衛大臣にはなっていないが、私は近くに寄って「アベ政治を許さない」というバッジを彼女のそばでちらつかせたんですが、無視された。その時まじかに見て、つけまつげとか、すさまじいお化粧をしてハイヒール姿・・・なんだか悪趣味で、下品でした。

終演後にアンコールで君が代進行曲、パチンコ屋で流れている音楽です、それに満員の観衆が無邪気に手拍子を打っている。そういう情景で終わってキャンパスに出てまたびっくり。自衛隊の立派なトラックが正々堂々と奏楽堂の前に駐車している、そんなことは普通は許されない、あり得ないことです。それは楽器とか、隊員を運んでくるためだったのだと思いますが、このイベント実施のためにこそ、そんなものが平気で学内に駐車している。しかも聴きに来たかたがたがキャーキャー喜んでと写メールしている。恐ろしい情景を見てしまった。こういうことがなぜ出来るのか、思い当たることがあります。芸大学長の宮田良平さんは経営委員もやった人で、今はもう経営委員を退任して、文化庁長官に転身、それで芸大学長もやめました。一連のきな臭いコンサートが芸大で行われたのは、学長の意向が、政府側とうまく

合致したからだだと思います。そもそも宮田学長は彫金の先生で、美術科彫金の教え子二人ぐらいに卒業式に麗々しく振り袖姿で登場させて、筆と紙を持たせて自分が字を書くというパフォーマンスをするのが恒例だったとか聞きましたが、卒業式にそんなことをやるの！と、それも驚きです。これは、安倍政権が政治をおちょくっているというか、まじめさが足りない、軽薄というか、あまりにも上滑りだという感じと同じ乗りではないかと感じました。

もう一つ、今文化庁と言っていますが、文化省に格上げされるらしいということで、おそらくそのことにも元芸大学長の転身が効力を奏しているのではないか。文化庁から文化省に格上げするためのイベントやコンサートがあってそこに駆り出されている私の知り合いの方もいて、え！あ！そう、でもそのことをあからさまには言えなくて、それは大変ね！と言っています。そんなことが起きています。だからNHKと音楽関係、文化、アートとかは切っても切り離せない、深いつながりでずっと連携していくのだな、と思います。

## 6. クラシック音楽と権威主義

6ページに書いてある「クラシック音楽と権威主義、女性作曲家の無視はどこから？」(状況批評)は、反天皇制研究会というところから何回か声をかけていただいてコラムを書いたりイベントに参加したり刺激を受けていますが、そこに書かせていただいたものです。ここで一番言いたいことは、私のライフワークとしている歴史に埋もれ知られることなく隠ぺいされた女性の問題というのが、解決が困難な事ばかりで、極めつけは慰安婦の問題じゃないかと思うと書きました。なぜ慰安婦かという女性、アジア、そして性的な身体という三重の差別の構造、つまり男性に対して女性、アジアは欧米に対して、そして性的身体は精神的頭脳に比べるという3重の差別構造がそこに含まれているからだろうと思います。私は、松井やよりさんが立ち上げた女性国際戦犯法廷が実施された2001年からNHK経営委員を務めていました。松井やよりさんの会に加わると同時

にNHKの経営委員も務めたということは、NHKが例の改変問題をやっちゃっていた訳ですからそういう意味ではE T V問題裁判をめぐる原告と被告の両方に身を置く立場になった。

今思うと、もっともっと経営委員会の席上で慰安婦問題について発言をしっかりとっておけばよかった。悔やまれますが、言い訳がましく言うて経営委員会は時間がとても少ない。膨大な議題を追認するだけ、議論するのは理事会が用意した予算の問題とか、人事の問題とか、資産の売却、当時は地デジ問題を話すだけでも、精一杯、それ以外に個人的な意見を出す時間が全くなくて、そういうことをすると怒られる気がしてそれが出来なかった。ただ、精一杯発言したことはそれを認めてくださった松田浩さんとか、醍醐先生とかが注目してくださって、おかげさまで今こういう席にもつらなることが出来ているのです。

30年以上務めた音楽大学で、うち20年来女性作曲家のことに気が付いて、それをライフワークにしようと思ったことと決して慰安婦問題と無関係ではありません。要するに全く無視されてそんなものは無かったよ、とされているなかで、実は女性のもすごく重要な問題がここ音楽の、又は歴史研究の中でもあるんだということ、やればやるほど実感した、ということなのです。

この、音楽で無視と忘却にさらされている女性作曲家をめぐる事実は、慰安婦とされ沈黙を強いられてきた女性たちの場合と決して無関係ではない。「女に創造力なんてないでしょう、それが証拠に女性作曲家なんていないでしょう」と、例の舛添というとんでもない知事、石原さんのとんでもなさ今朝も新聞で分かりましたが、前任の舛添さんも女性差別発言の羅列でした。女の作曲家はいない、と無知をさらけ出したご本人が、あろうことか都知事に当選しちゃった、その日に、皮肉なことに、フランスでとても重要な、いまや評価がとてまたかまっているルイーゼ・ファランクの、シューマンか、それともメンデルスゾーン？と間違われるような交響曲が、実は日本のアマチュアのオーケストラによってしっかりと初演されました。多分そんなことを聞いたことも見

たこともないからこそ、ああいう無知を平気で言えるのだと思います。

そんなことがありまして、クラシック音楽と権威主義、女性作曲家の無視はどこから？という、支配階層の権力筋に居座るいろんな男性たちが全く関心なく、こういうものに対する興味や想像力を働かせないから、ということになります。そういうことがずっと積み重なっていると思います。

今日の参考文献に載せた2番目の中野敏男さんの「詩歌と戦争—白秋と民衆、総力戦への道」と「女性作曲家ガイドブック 2016：古典派から近代の26人」を紹介します。

次にE TV特集「吉田隆子」を観てください。NHKにしては珍しく素晴らしい番組です。

(内容省略)



指揮する吉田隆子

### Ⅲ. 聴講者の感想など発言

#### 発言1.

神戸から参りました西川と申します。小林先生には、「NHK問題を考える兵庫の会」の講演会には3回ぐらい来ていただきまして、経営委員会のお話などお聞きしました。

11月に私たちは「日本会議の全貌」という講演会をしました。この時、小林先生もお越しいただきまして、小林先生から先ほどお話のあった「海道東征」という曲が、戦後封印されていたにもかかわらず産経新聞の後援で演奏会が行われ、音楽界でも軍国主義の足音が聞こえてきた、というお話がありました。私は1942年に生まれましたが、「海道東征」などという曲は言葉も、音楽も聞いたことがありません。

しかし「日本会議の全貌」という講演会だけではよく解らないところがありまして、12月にもう一度、「なぜ安倍政権と日本会議は、日本国憲法を敵視するのか」という講演会をしました。安倍さんは日本独自の憲法であるとか、日本の伝統とか美しい日本を取り戻すとか、言うけれども、実際には独自どころか、安倍政権は一番の対米従属の政権であり、そこの謎が解けない、ということでもう一度講演会をやったわけです。日本会議に関わる学習を2回しまして、少しわかってきました。

「海道東征」を古典文学全集で読んでみました。「海道東征」を作ったのは信時潔という作曲家というお話がありました。ネットで調べましたら「海ゆかば」という日本の第2の国歌と言われる歌を作った人であることが解りました。「海ゆかば」とは何だろう、紹介しますと次のような歌詞です。

うみゆ みづ かばね  
海 行かば 水漬く 屍、  
やまゆ くさむ かばね  
山 行かば 草生す 屍、  
おほきみ へ にこそ死なぬ、  
大 君 の 辺 に こそ 死 な じ  
かへりみはせじ (長閑には死なじ)



これは聖武天皇の時代749年に大伴家持が詠んだ長歌の一節です。

今私たちの目の前に日本会議が現れて、憲法改

悪を進めており、森友学園の事件が安倍夫妻の望んでいる戦前の教育につながっているということで、戦後総理大臣の犯罪というのは例えばロッキード事件などありますが、夫妻での疑獄事件は初めてですね。しかもNHKが関わっている。



NHK の経営委員には日本会議に所属している人が 4 人もいる、そういうことなども含めると、今 NHK が国家の犯罪に丸々協力している放送機関になっているということですから、私たちは受信料の凍結をもう一度やらなきゃいけないなと思って止めているところです。

## 発言 2.

奈良市から来ました。「海道東征」というのは知らないのですが、内容的に見て、天照大神の子孫の瓊瓊杵尊ににぎのみことが九州の高千穂の峯に降りてきて、その 3 代目の神武天皇が兄と一緒に九州では日本全体を治められないとういことで、もっと日本の中央で支配しようとういことで、九州の高千穂の峯から、東に向かって進んでいって、大阪・浪速に来たら抵抗勢力があって、それに抵抗されて、やむなく紀伊の国・和歌山の方にいき、そこから吉野山中を進んでいったところ、道に迷った。大台ヶ原には神武天皇の大きな像が建っていますが、八咫鳥やたがらすという 3 本足の鳥が飛んできて、私が道案内をしましょうとういことで、大和の平野部に出てきたらまた抵抗勢力にあって、その時に金の鳥が飛んできてピカッと光ってその抵抗勢力をやっつけた、という話があります。「海道東征」というのはその事だろうと思います。神武天皇が橿原に都を開いた、天皇支配をたたえる、日本は光り輝く国であるとうい

「金鷄きんし輝く日本の 栄えある光身に受けて・・・紀元は二千六百年・・・」神武天皇が橿原に都を開いてから 2600 年経つとういことで、昭和 15 年に大々的な奉祝行事をやりました。奈良では、橿原神宮のところはかつて橿の宮があって、橿の鬱蒼とした森があったとういことで、それを復元させるために建国奉仕隊がつくられて、各学校の生徒などを動員して、土を運んで今ある森を作ったとういいきさつがありました。意識してみれば、各地に紀元 2600 年の記念の碑がいっぱいあります。市町村あらゆるところにあります。私が生まれた旧八木村にも何箇所かありました。そういう天皇支配とういものを讃えるために作

られたものです。皇紀 2600 年の皇紀とういのは、神武天皇が橿原に都を開いてから何年経つかとうい意味ですね。右翼がよくこれを使っています。そういう意識があるのが、森友学園のあのバカ理事長、あるいは安倍首相であろうと思います。皇紀 2600 年とういのを皆様に思い起こしてもらいう意味で発言しました。

## 発言 3.

放送を語る会で活動しています服部とういいます。小林先生とは、この間ありました 2 月 26 日の集会でご一緒にしまして、その時に NHK 会長候補に推薦した落合恵子さんのメッセージを代読していただきました。先生のお話の中で、非常に感じたことを少し発言させていただきます。

1 つは音楽活動を通じて、特に女性の作曲家の発掘、その曲の演奏活動をやってこられたとういことで非常に素晴らしいことと感じました。

もう 1 つは、NHK の経営委員を 2 期やられたわけですが、その体質を赤裸々に語っていただきました。大名旅行のこととか、高額報酬とか、そして経営委員の人たちが本当に国民のためにきちっと発言できるのかとういようなことに非常に疑問を感じました。そういうことがあったのかと。靱井会長を退任に追い込んだのは、我々の運動の成果ですけれど、同時に新しい体制になったといっても、そういう経営委員会の体質が変わらない限り、NHK は民主的な国民のための放送局になっていくことはできないので、今後とも皆で力を合わせていろいろな運動を続けていけたらなあと思っています。以上です。

## まとめの発言

京都からまいりました。「靱井会長やめはったら受信料払います京都の会」の共同代表をやっておりましたが、靱井会長やめたので、もうすぐ解散します。須田稔と申します。立命館大学の名誉教授です。今日お話を聞いていて、NHK の「もういちど、日本」というのがありますよね。あれはちょっと怪しいなと思うのです。安部の「美し

い日本を取り戻す」というのと共通しているのではないか？「もういちど、日本」というのはどういう意味なんだろう？そしてもう一つ、「にっぽん」という言い方は大嫌いです。

私が生まれる2年前に、山本宣治という労農党の代議士が右翼に暗殺されました。治安維持法改悪に反対した。国会議員ただ一人だったと思います。しかし「孤塁を守る！だが私は寂しくない、・・・大衆が支持しているから・・・」という言葉を残しています。

また、私が生まれた2年後に、小林多喜二が虐殺されました。しかも特高・警察の中ですよ。そういう時代に生まれた私は、軍国少年として洗脳されました。今日お話を聞きまして、「信時潔・海ゆかば」あれが決定的だったです。あの歌が決定的だったです。「海ゆかばみづく屍、山ゆかば草むす屍、大君の辺にこそ死なぬ、かえりみはせじ」。天皇陛下のために死ぬんだ、絶対に後悔はしない。この歌が決定的に私の精神を変えてしまったと思います。もちろん君が代、日の丸、宮城遥拝、奉安殿、教育勅語、修身など徹底して軍国主義教育をやって、やられてきたわけです。中学に入って軍事教練がありました。配属将校がいました。匍匐前進などいろんなことをやらされてきたんです。私の六つ上の兄が出征した時に、母は関節リウマチで外へは出なかったのです。私が駅まで見送りに行き帰ってきましたら、母が嗚咽していました。「お母ちゃん！泣いたらあかんやんか！非国民やで！」という言葉にはしなかったんですが、母を睨みつけたんです。兵隊に招集されるということは、当時はお祝いごと、名誉あることだったのです。お祝いをしなければいけない。万歳といって送ったのです。泣いてるなんてことは非国民扱いをされた。そういう教育を受けてきた私は、自分の息子がおそらく帰ってこないだろう、遺骨となって帰ってくるのではないかという母親の辛い悲しい思いを察することができないそういう子供に育っていた。

ほんとに、軍国主義教育は、人間を人間にしないそういう教育だったのです。そういうこともあ

りまして、私は「もういちど、にっぽん」、「にっぽん」という言い方は嫌いで、「大にっぽん帝國憲法」。国際試合で「にっぽんチャチャチャ」あれは耐え難いです。「にほん国憲法」なんです。「大にっぽん帝國憲法」はもうないです、ということをお願いしたいのです。だからあのNHKの「もういちど、日本」は「にっぽん」と読ませたいのかな、僕は絶対「にっぽん」とは読まないぞ、そんなことを思っている私なんです。

今日小林先生のお話を聴いて、「海ゆかば」が決定的に私の精神を変えた歌です。「信時潔」この名前は忘れられません。彼を憎んでもしょうがないかなとも思うんだけど、「海ゆかば」という歌を聴いて、あれは荘重な音楽ですからね、本当に。僕は、「天皇陛下のために、戦場へ行って死に行くんだ！これが君たち大和男児の生き方だ！」小学校の校長さんから教えられたんだから、本当にそう思っていました。東京芸大がこんなになっているとは、がっかりですね。ほんとにひどいなと思います。海上自衛隊の音楽隊と一緒にコラボレーション演奏をやるなんて、どこまで墮落しているのか東京芸大、ほんとに大変なことです。それから私は、「吉田隆子」さんの名前は聞いた、あるいは読んだことがあるという記憶はあるのですが、詳しいことは知りませんでした。今日お話をしてくださって、もうちょっと知らなくてはいけません。今日は小林緑先生の貴重なお話有り難うございました。

それから、NHKの問題ですね、上田さんが新しい会長になっているんですけど、警戒を緩めたらいけないと思うんですね。一応公正・公平な放送を、放送法を遵守してと、おっしゃっているようだけれども、しかし安倍政権、特に官邸の圧力があるに違いないですから、会長がどういうふうに変節をするのか、変節させない運動もしなくちゃいけないかな、と思っております。今日は有り難うございました。

-----  
お届けが大変遅れましたことお詫びいたします。